

基本政策Ⅱ 学ぶ意欲を育て、「生きる力」を伸ばす

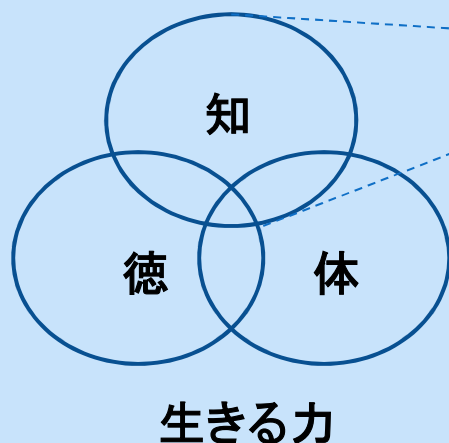
学力向上に向けた取組

令和4年3月23日(水)

～「学力」とは～

意見交換にあたっての共通認識

学習指導要領においては、「生きる力」について、「確かな学力(知)」「豊かな心(徳)」「健やかな体(体)」の3つの要素からなる力とされています。



確かな学力(知)

- ・知識や技能
- ・思考力・判断力・表現力

をバランスよく育み、主体的に学習に取り組む態度を養う

～子どもたちの現状～

市学習状況調査（児童・生徒アンケート）より

指標名	H26実績値	H29実績値	R3 実績値	R7 目標値
授業の理解度 「授業がわかる、どちらかといえばわかる」	小5 88.3% 中2 73.4%	小5 90.9% 中2 77.2%	小5 90.1% 中2 79.6%	小5 94.0% 中2 82.0%
授業の好感度 「学習がすきだ、どちらかといえばすきだ」	小5 74.2% 中2 57.8%	小5 77.8% 中2 61.2%	小5 75.4% 中2 64.8%	小5 81.0% 中2 67.0%
授業の有用度 「授業で学んだことは将来、社会に出たときに、役に立つ、どちらかといえば役に立つ」	小5 89.4% 中2 70.7%	小5 93.8% 中2 76.1%	小5 92.4% 中2 81.0%	小5 97.0% 中2 85.0%

～これまでの取組～

「確かな学力」の育成に結びつく主な取組

- 教師による丁寧な指導
- 習熟の程度に応じた指導
- 少人数指導・少人数学級の推進

- 市学習状況調査（小5、中2）の実施及び結果の活用
※第3期実施計画で拡充

- 全国学力・学習状況調査の結果等に基づく授業改善
等

～これまでの取組～

教師の力量や経験に頼ったスタディ・ログの活用

- ・生活態度、健康状況
- ・授業の様子や課題提出、授業中の作品
- ・テスト等の結果 等

RI文科省
「スタディ・ログ」

これまでも様々なスタディ・ログを活用して指導方法の工夫がされてきたが、データの蓄積がされていないため客観的な根拠として、集団や経年の比較等に基づいた授業改善や教育施策の立案には生かされづらかった。

～スタディ・ログ活用の強化～

「確かな学力」につながる環境整備の進展

- ・かわさきGIGAスクール構想等により、さまざまなスタディ・ログ（学習履歴）が蓄積される環境整備が進んでいます。

スタディ・ログのイメージ	活用単位			
	個人	学級	学校	市
今後蓄積される主なデータ				
・児童生徒の授業中の意見等	○	○		
・授業中の作成物	○	○		
・「Google classroom」での課題・提出物	○	○		
・授業のポイントでの理解度アンケート	○	○	△	
・小テスト（ドリルパークなど）	○	○	△	
・定期テスト	○	○	○	
・市学習状況調査	○	○	○	○

～スタディ・ログ活用の強化～

「確かな学力」につながる環境整備の進展

・活用主体ごとのイメージ

個人	個人が自分の長所や弱点を知り、学習に活かす
学級	担任による指導や評価の改善に活かす
学校	校長・教頭等による学校運営、校内体制づくりに活かす
市	市全体での教育政策の効果検証に活かす

～さらなる充実へ～

市学習状況調査の拡充

- ・一人一台端末やスタディ・ログの活用により、一人ひとりの“わかる”に向けて取り組んでいきます。
- ・スタディ・ログの活用については、個人、学級、学校、市単位で活用が可能な重要なデータであるため、現在の小5・中2での実施から、小4～中3までの6学年に拡充するとともに、調査内容や手法についても見直しをしていきます。

これまで	第3期より拡充	期待する効果
小5・中2の2学年	小4～中3の6学年 (R5実施予定)	<u>個人の成長を確認した上でのカリキュラム・マネジメントの改善・充実</u>

～さらなる充実へ～

“わかる”につながる流れ（イメージ）



「わからない」の発見・分析



分析結果を知る



分析に沿った「わかる」指導



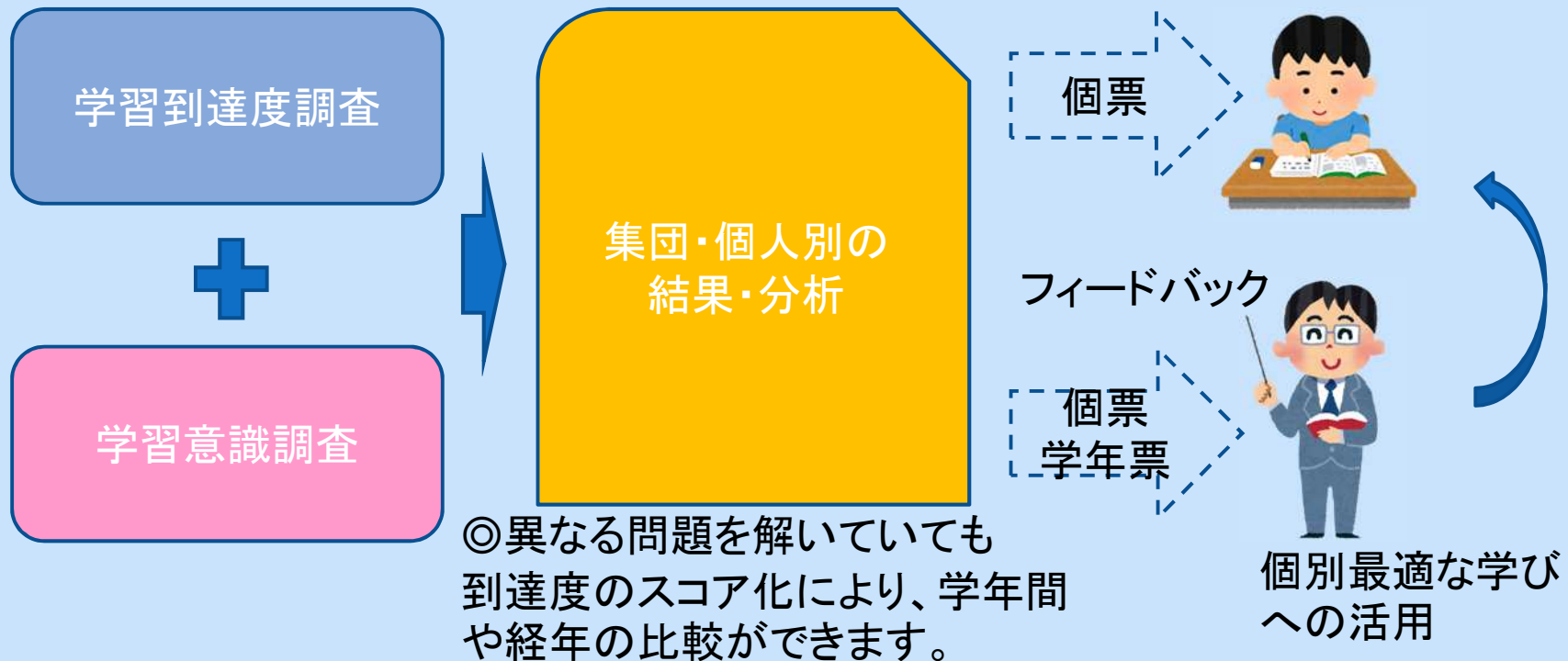
「わかる」ことによる意欲向上



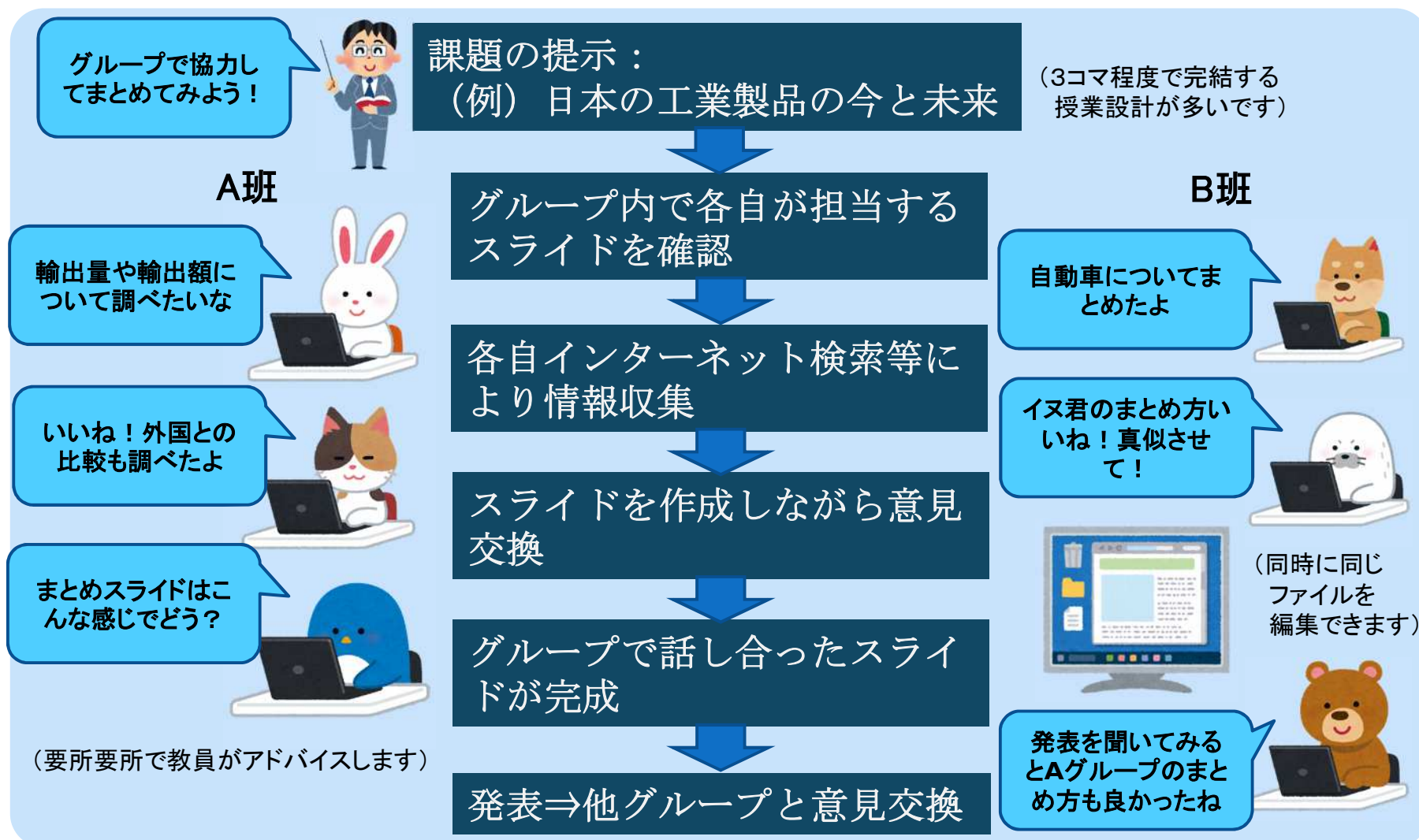
～さらなる充実へ～

新しい市学習状況調査（イメージ）

- ・民間調査・分析システムを活用した効率的で客観性の高い結果・分析をフィードバックします。



～【補足】協働的な学びの事例～



参考資料

中央教育審議会「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）抜粋

3. 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿 より抜粋

指導の個別化

□ 基礎的・基本的な知識・技能等を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するため、
・支援が必要な子供により重点的な指導を行うことなど効果的な指導を実現
・特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行う

学習の個性化

□ 基礎的・基本的な知識・技能等や情報活用能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、子供の興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する

参考資料

中央教育審議会「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）抜粋

4. 「令和の日本型学校教育」の構築に向けた今後の方向性 より抜粋

(4) 履修主義・修得主義等を適切に組み合わせる

□ 修得主義や課程主義は、個人の学習状況に着目するため、個に応じた指導等に対する寛容さ等の特徴があるが、集団としての教育の在り方が問われる面は少ない

□ 履修主義や年齢主義は、集団に対し、ある一定の期間をかけて共通に教育を行う性格を有し、一定の期間の中で、個々人の成長に必要な時間のかかり方を多様に許容し包含する一方、過度の同調性や画一性をもたらす可能性

□ 義務教育段階においては、進級や卒業の要件としては年齢主義を基本としつつも、教育課程の履修を判断する基準としては履修主義と修得主義の考え方を適切に組み合わせ、「個別最適な学び」及び「協働的な学び」との関係も踏まえつつ、それぞれの長所を取り入れる

□ 高等学校教育においては、その特質を踏まえた教育課程の在り方を検討

□ これまで以上に多様性を尊重、ICT等も活用しつつカリキュラム・マネジメントを充実